

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立大根小学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 【話し合いの様子の一部】で質問に対して、知りたかったことの説明として適切なものを選ぶ設問の正答率は、全国平均を上回る結果となりました。必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることができていると言えます。	(1) 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く設問の正答率は、全国平均を下回る結果となりました。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題が見られます。
(2) 夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ設問の正答率は、全国平均を上回る結果となりました。予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができると言えます。	(2) 果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す設問の正答率は、全国平均を下回る結果となりました。百分率で表された割合を分数で表すことに課題が見られます。
(3) 質問紙「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」において、およそ4人に3人はしていると回答しています。自主学習ノートの取り組みなど、家庭学習に対するフォロー体制づくりが一定の成果を上げているものと思われま	(3) 学校で、授業中に自分で調べる場面や、学級の友達と意見を交換する場面、自分の考えをまとめ、発表する場面などで、PC・タブレットなどのICT機器を使用していると回答している児童の割合が全般的に低い傾向にあります。授業等で児童自らが有効に学習用端末を使用していくことに課題が見られます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 算数科を中心とした校内研究の取組で、子どもの言葉でつながるような授業づくりの展開を推し進めてきた結果、あきらめずにいろいろな方法で問題を解こうとする児童の割合が高くなってきていることから、学校全体で継続して取り組んでいくことが大切であると考えています。
(2) 児童がクロムブック等のICT機器を活用することについては、まだ十分とは言えず、職員の研修等の機会を増やして職員の資質向上に努めるとともに、様々な教科での学習において、児童が利活用する学習を積極的に取り入れていく必要があると考えています。
(3) 効果的な教科指導や児童支援を推進するため、教科担任制や専科教員による指導、少人数指導など多様な指導体制を行ってきた結果、授業内容に対する理解について肯定的にとらえる児童の割合が多いことから、より一層の充実を図っていくことが大切であると考えています。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 算数科を中心とする校内研究で積み上げてきた子どもの言葉で考えがつながるような授業づくりの成果を、他教科にも広げていくことで、各教科の思考力の向上につなげていきます。学校全体で情報共有と共通理解を図り、学習指導を行っていきます。
(2) 質問紙の回答結果において、多くの児童が学習の中でクロムブックなどのICT機器を使うことが勉強の役に立つと考えていることを踏まえ、授業内における積極的な活用を図るとともに、家庭学習等の機会においても積極的かつ効果的な活用を推進していきます。
(3) コミュニティ・スクールの研究推進をし、地域とともにある学校として、あいさつ運動や地域の見守り支援など、地域の思いも学校運営に生かしながら、学校だけではできない取組など子どもの学びの充実につなげていきます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

質問紙「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）」の回答結果において、全国平均よりも高い割合であることから、日頃から子どもたちに対する地域の方の支えがあることが分かり、大変ありがたいと思います。将来の夢や目標をもち、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答している児童が多いことも本校児童の特徴であることから、引き続き、子どもたちへの声かけや支援のご協力をお願いします。